

☆ あ・い・う・え・お・ん・促音(っ)が、その直前の文字と共に一つの音符に対応する場合。

ちい さないけのな か に ぼっ かりしろいくも

☆ 長音符で書く「う」は、そのまま原文通り「う」を書く。

ゆ め の よう な ゆう べ

☆ 外来語の長音符はそのまま長音符をつかう。

さあ た の し い ポー レ チ ケ

(2) 1音符・2音節以上

☆ 言葉のカッコの開き(5・6の点)と閉じ(2・3の点)で囲む。

おめで どう たん じょう び おめで どう たん じょう び

(3) 2音符以上・1音節

☆ 伸ばす文字に長音符(2・5の点)をつける。

おわれ て みたのー はー いつのー ひー か

☆ タイで結ばれている音符は、1音と見なす(a)。

ただし(b)の場合は、旋律と歌詞の小節がずれることになるので、必ず長音符をいれる。

ある ひ パパと ふたりにー かたり あったさー

♪ 外国語の場合 ♪

- ◎ 一つの単語を音符の数にあわせて分割する場合は、墨字のハイフンを手掛かりに分け、つなぎ符(3・6の点)でつなぐ。
- ◎ 歌詞の部分に小節線(5・6の点)を入れる。

(1) 基本的な例

Ma - lin - co - ni - a, Nin - fa gen - ti - le,

(2) 1音符に2つ以上の単語(音節の一部でも)が対応する場合

☆ それぞれの音節の間を言葉のタイ(4の点と1の点)でつなぐ。

Ca - ro mio ben, cre - di-mi al - men,

☆ タイで結ばれている音符は、1音と見なす。
 ただし次の場合は、旋律と歌詞の小節がずれることになるので、必ず長音符を入れる。

2. スラーの特殊用法

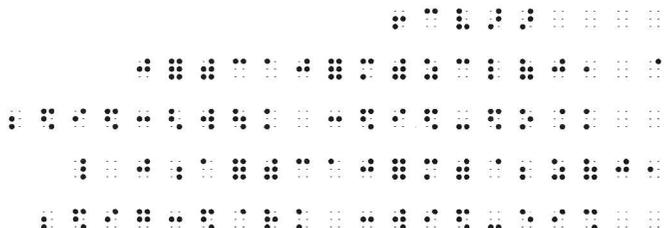
歌詞と音符の対応がわかりにくい場合

☆ 音符が3つ以下の時 点訳者のスラー(4・5・6の点と1・4の点)

☆ 音符が4つ以上の時 開き(5・6の点と1の点)、閉じ(4の点と2・3の点)で囲む。



Kön - nen Trä - nen mei - ner Wan - gen



3. 繰り返し法

(1) 声楽のパート

☆ 声楽のパートにおいて繰り返しの使用はあまり望ましくない。

(2) ピアノ伴奏等

☆ 小節番号による繰り返し法

原則として両手とも繰り返す部分が同じ場合に限る。しかしパラレルの区切り方が前と同じであり、またそれが長ければ(8小節以上)片手の中でも使用できる。

付記

[声楽譜] 段変更線

2007年7月28日

2012年3月24日改訂

1. 段変更線の要・不要は作業票の指示に従う。
2. 作業票に記載がない場合、次のような事を総合的に考慮し、必要に応じて入れる。
 - ・原本に練習番号、小節番号があるかどうか。
(練習番号が有っても、その間隔によっては必要な場合も有る)
 - ・原本1ページの段数が多いかどうか。
 - ・原本1段の小節数が多いかどうか。
(段数のみに囚われがちだが、小節数も考慮する必要が有る)
3. 段変更線はすべてのパートに入れる。
4. 段変更線を入れる場合は必ずページ変更線も入れる。

[声楽譜] 詞の表記

2025年12月25日改訂

1. 曲の終わった後に歌詞を入れる場合、曲と歌詞の間に中央仕切り線を入れて、次の行から歌詞を書く。
2. 題名は7マスまたは5マス目より書き始める。
3. 題名と詞の間は行あけ無しで記す。
4. 詞は原則3マス目より書き始め、改行は5マス目とする。